

# 関西大学

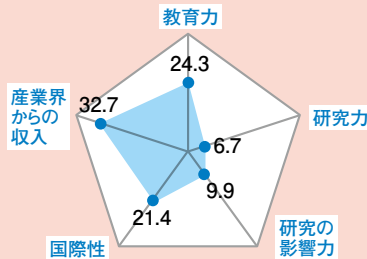
「教育力」の評価は長年の教学改革の成果  
「国際性」は工程表に基づき向上をめざす



学生数 / 30,178人  
 学部 / 法、文、経済、商、社会、政策創造、外国語、人間健康、総合情報、社会安全、システム理工、環境都市工、化学生命工  
 大学院 / 法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、理工学、外国語教育学、心理学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、人間健康

指標	ポイント	ランキング	その他指標
総合	<18.5	801+位	ST比率 / 10.9
教育力	24.3	501-600位	留学生の割合 / 3%
研究力	6.7	801+位	
研究の影響力	9.9	801+位	女男比 / 39 : 61
国際性	21.4	801+位	
産業界からの収入	32.7	801+位	

ランキング担当部署:学長室



\*データは全て THE 世界大学ランキング 2016-17 に基づく

## 博士号取得を推進 その結果が「教育力」に

エントリに至るきつかけは、スーパーグローバル大学創成支援への申請の際に、「国際的な評価の必要性を強く認識したためです。加えて、第三者の評価を通して、自学の強みやウィークポイントなど、現状を把握したいという考えもありました。

今回「研究力」や「研究の影響力」のスコアが低い結果となりましたが、文系学部が主流を占める学部構成の影響なども踏まえて、冷静に受け止めたいと思います。

「教育力」のスコアが比較的高かったのは、学問分野を問わず測れるからだと考えます。

本学は、15年ほど前から大学院を重視し、課程博士を授与できるよう取り組んできました。教員スタッフにも博士号を持つ者が増えています。「教育力」の評価指標の一つに、「博士号取得者数と教員数の比率」がありますから、その点が評価につながったと考えら

れます。

加えて、本学は学生一人ひとりに向き合う指導を重視しています。高校からスムーズに大学の知に触れられるよう、初年次にアクティブ・ラーニング型の授業を多数配置するなど、ある意味おせっかいな大学なのですが、こうした特徴も「教育力」の評価につながっているのかもしれない。

また、社会安全学部という全国でも類を見ない学部を2010年に開設しており、安全科学分野で突出した学問の独自性もスコアに影響したのでしょう。

## 「4部体制」を組織して 真の情報と実力を発信

「国際性」については801+位という結果を十分だと思っはいません。本学では2014年から10年計画で関西大学国際化戦略「トリプル・アイ構想」を掲げ、異文化適応能力を養う教育を推進。工程表も作成して改革を進めています。外国人教員や海外から

の留学生を増加させる施策も組み込んでいますので、今後このスコアは着実に上がっていくでしょう。大学には、社会連携という使命があり、今後はいっそう社会と大学とが有機的に結びつく必要があると考えます。この点が将来、大学として生き残れるかどうかの要となるでしょう。大学の外にも実践の「知」の現場として社会連携の拠点や結実点を持つ本学の強みが、いずれは各スコアに反映されていくと思います。

2008年から、執行部と各学部の間で独自組織「4部」を編成しました。担当副学長のもと、「教育推進部」「研究推進部」「社会連携部」「国際部」を設置し、全学的に意思決定がしやすい体制になりました。この国際部を中心として海外の大学や研究所との連携を深め、研究と教育のレベルアップにつなげていきます。



学長  
芝井敬司

しばいけじ ● 1981年京都大学大学院文学研究科博士課程後期課程中途退学。1994年から関西大学教授(文学部)。2010年から学校法人関西大学理事。2016年10月関西大学学長就任。独立行政法人日本学術振興会、大学教育再生加速プログラム委員会専門委員も務めた。